施策評価シート

施策等名称	体験機会の充実	体系番号	0201010104
		主管課	こども課

1 施策基本情報

現状と課題	子どもたちが豊かな自然の中で保育園や学校、家庭だけでなく地域社会などで様々な体験や経験を積み、子どもの大きな成長につながるよう、子ども会や読書活動の支援、また、こども館の運営やこども会議の開催などを実施してきました。しかし、少子化による地域行事等の減少から地域に子どもの大きな成長につながる様々な体験や経験を積む機会の減少が懸念されるため、対応策が必要です。
めざす将来像 (あるべき姿、基本的な考え方)	子どもが経験する様々な体験が子どものたくましさを育てます。家庭、保育園・学校、地域、企業、行政が連携して体験の機会の充実を目指します。

施策指標	指標名称	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値	2027年度目標値
	①	各地区育成会モデル事業の実施数の増	モデル事業を実施する育成会の数の継続(団体)	20.00	
②					
③					

施策の柱1	名称	地域行事や体験活動を活用した環境の整備	主管課	こども課・生涯学習課 ・スポーツ健康課		
	詳細	地域行事の縮小や子どもの参加が少なくなってきたため、子どもの参加を促すだけでなく対象地域や対象範囲の拡大等、子どもの関わり方の工夫が必要です。子どもたちが社会の一員として将来を担える力を育むために、地域のリーダーを育成すること、また、ボランティア活動等幅広い体験の提供を推進します。第3次茅野市こども読書活動推進計画やスポーツ推進計画に基づいた事業を推進します。				
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分
	1				1 子ども会育成会支援事業	実施
	2				2 少年リーダー育成研修事業	実施
	3				3 読み一むいちの活動支援事業	実施
基本政策関連連携 生涯学習推進指針 、 社会教育推進計画 、 第3次茅野市こども読書活動推進計画 、 スポーツ推進計画						

施策の体系	名称		主管課			
	詳細					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分
	1				1	
	2				2	
	3				3	
基本政策関連連携						

施策の柱3	名称		主管課			
	詳細					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分
	1				1	
	2				2	
	3				3	
基本政策関連連携						

施策等名称	体験機会の充実	体系番号	0201010104	
		主管課	こども課	

2 指標等の推移と変動要因

体系区分	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
指標No.		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)					
施策		20.00	16.00	16.00	4.00	7.00	-	-
1	各地区育成会モデル事業の実施数の増	20.00	80.00	80.00	20.00	35.00	-	-
変動要因等	2018年度	情報紙の発行やモデル事業のPRによって、モデル事業を実施する育成会数は目標値の80%となった。						
	2019年度	情報紙の発行やモデル事業のPRによって、モデル事業を実施する育成会数は目標値の80%となった。						
	2020年度	新型コロナウイルスの影響により、モデル事業が実施できなかった。						
	2021年度	前年同様、新型コロナウイルスの影響により、モデル事業が実施できなかった。※2021年度をもって事業廃止。						
	2022年度	2021年度をもって事業廃止。						
	2023年度	2021年度をもって事業廃止。						
柱1		20.00	16.00	16.00	4.00	7.00	-	-
1	各地区育成会モデル事業の実施数の増	20.00	80.00	80.00	20.00	35.00	-	-
変動要因等	2018年度	情報紙の発行やモデル事業のPRによって、モデル事業を実施する育成会数は目標値の80%となった。						
	2019年度	情報紙の発行やモデル事業のPRによって、モデル事業を実施する育成会数は目標値の80%となった。						
	2020年度	新型コロナウイルスの影響により、モデル事業が実施できなかった。						
	2021年度	前年同様、新型コロナウイルスの影響により、モデル事業が実施できなかった。※2021年度をもって事業廃止。						
	2022年度	2021年度をもって事業廃止。						
	2023年度	2021年度をもって事業廃止。						

施策等名称	体験機会の充実	体系番号	0201010104	
		主管課	こども課	

3 評価・改革改善

(単位:円)

項目	2018年(前年度比)		2019年(前年度比)		2020年(前年度比)		2021年(前年度比)		2022年(前年度比)		2018年~2023年(総括)	
	投資額	事業費(円)	4,250,589	4,175,831	0.98	3,686,760	0.88	5,558,213	1.51	4,901,451	0.88	4,253,745
うち一財(円)		4,150,589	4,175,831	1.01	3,686,760	0.88	5,556,813	1.51	4,900,051	0.88	4,209,745	0.86
(2018年~2023年(総括)については2023年の実績を記載)	増減理由(一般財源前年度比±10%以上の場合に記載)											
進捗評価	おおむね順調		おおむね順調		遅れている		遅れている		やや遅れている		やや遅れている	
総合評価	主な取組内容や成果	リーダースクラブの会員及びモデル事業を実施した単位子ども会育成会の子どもは、自らの行事の企画・運営できるようになってきている。	リーダースクラブの会員及びモデル事業を実施した単位子ども会育成会の子どもは、自らの行事の企画・運営できるようになってきている。	予定していた事業が実施できなかった。	予定していた事業が実施できなかった。	新型コロナウイルスの影響により、リーダースクラブ、モデル事業の実施ができなかったため。	読りむちの活動支援事業費について、会計年度任用職員報酬の皆増。	茅野市子ども会育成連絡協議会負担金において、新型コロナウイルス感染症の影響により多くなっていた繰越金を加味して交付したため。	茅野市子ども会育成連絡協議会負担金において、新型コロナウイルス感染症の影響により多くなっていた繰越金を加味して交付したため。			
	課題	モデル事業や子ども会育成会の理念などが、地区・単位子ども会育成会に浸透しにくい。	モデル事業や子ども会育成会の理念などが、地区・単位子ども会育成会に浸透しにくい。リーダースクラブ会員の技術の継承が難しい。また、小学生で加入しても、中学、高校と継続する会員が減っている。新しい生活様式への対応についても今後検討する必要がある。	リーダースクラブの活動ができなかったことで、今後の会員が減少すること、技術の継承が困難となった。	リーダースクラブの活動ができなかったことで、今後の会員が減少すること、技術の継承が困難となった。	(R4・総括評価共通)リーダースクラブの活動ができなかった期間の影響から、会員の減少や技術の伝承が困難となり、活動の幅が狭まっている。	コロナ禍でリーダースクラブの活動ができなかったり、メンバーの募集ができないことで、会員の減少や技術の継承が困難となる課題が発生している。また、子どもをとりまく生活環境や価値観が変化しており、時代にあった体験機会の提供を検討する必要がある。					
改革・改善	改革・改善内容	引き続き、市子ども会育成会と地区・単位子ども会育成会との連携に向けて、研修会等を通じて理念やモデル事業等を紹介し育成会活動を支援する。また一歩の着るみによるPRを進めていく。	モデル事業補助金は、20年経過する中で事業がマンネリ化している。補助金を「子どもが主役の子ども会」の発展のために活用できるよう、内容を含め検討する必要がある。リーダースクラブ会員の資質の向上のため、丁寧なサポート体制を継続していく。	コロナ禍における、活動を模索すること、また、地区・単位育成会の支援を継続していく。	コロナ禍における、活動を模索すること、また、地区・単位育成会の支援を継続していく。	活動再開の兆しがみえる地区・単位育成会の支援を継続していく。	コロナ禍で様々な活動に制限がかかる中でも、可能な活動を実施するとともに、地区や単位育成会への情報提供を行うなど、体験機会の提供や、コロナ禍を乗り越えるための支援活動を行うことができた。					
	重点化する施策の柱	1	1	1	1	1	1					
	重点事業	1	1	1	1	1	1					
理由	子どもの地域行事への参加を促進させるためには、地区・単位育成会の活動を活性化させる必要があるため。	子どもの地域行事への参加を促進させるためには、地区・単位育成会の活動を活性化させる必要があるため。	コロナ禍においても、感染症対策をとりながら、地域行事の開催を支援していく必要があるため。	コロナ禍においても、感染症対策をとりながら、地域行事の開催を支援していく必要があるため。	コロナ禍における子どもたちの体験機会の減少に対し、地域行事の再開等を支援していく必要があるため。	コロナ禍で、活動等が低迷している団体への支援や、活動再開を図っている団体への支援をしていく必要があるため。						

作成担当者	宮下 孝	宮下 孝	宮下 孝	宮下 孝	小平 剛史	小平 剛史
最終評価責任者	有賀 淳一	有賀 淳一	有賀 淳一	五味 留美子	五味 正	五味 正
最終評価年月日	令和元年5月31日	2020年7月10日	2021年5月28日	2022年5月27日	2023年10月19日	2024年7月5日